

長谷川 望牧師

- \* ヨハネの福音書14章から17章は、イエス・キリスの弟子たちに対する遺言ともいえるべき大切な言葉が記されている。本日のテーマは「わたしを愛しなさい」ということと、「そうすればわたしの平安が与えられる」ということ。
- \* 「愛する」とはどういうことなのか。どういう行為なのか。三浦綾子さんのエッセーの中に、洞爺丸沈没事件のことが書かれている。1954年の9月に台風で青函連絡船が沈没し、1155人が死亡または行方不明になった大事故。この時、二人の宣教師が、自分たちが付けていた救命具を二人の青年に与え、自分たちはいのちを失った。どうしてこのような愛の行動がとれたのか。「宣教師たちは、それまで、自分を犠牲にして多くのものをささげてきた。故国、親兄弟、友人、地位、金銭等々。キリストのために。日本人にキリストを伝えたい一心で。日常の生活で、このように多くのものを捧げて生きることができて、はじめて命をも捨てることができるのではないか、」と三浦さんは言われる。その通りだと思う。危急のときになって、いきなり、このような勇敢な行為ができるはずがない。
- \* イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。（ヨハネ14：23）主イエスを愛するとは、「イエスの戒めを守る」ということである。「守る」とはただ知っているだけでなく、それを行うということである。イエスのことば、戒めとは何かと考えるとあまりにも多くありすぎて途方に暮れてしまう。まして、それらを全部行うことは私たちには無理であると思われる。しかし、私たちは信じているイエスを愛したい。どうすればよいか。一言で言えば、自分中心の生活をシフトして神様中心の生活にシフトすることではないだろうか。宣教師たちがそうであるように、自分自身に用いていた時間や、お金や、様々な賜物を、少しでも神様や、人のために用いることである。その時に、助けてくださるのが、私たちの中に住む聖霊の神である。（ヨハネ14：26参照）
- \* この、いつもともにいてくださる神様は、罪の重荷を取り去り、永遠のいのちを約束してくださる方である。それゆえ本当の平安、平和が与えられる。この方を愛し、戒めを守ろう。